

= CAMPUS LIFE = 課外活動紹介

「農牧舎」

実は50年以上も続いているサークル、「農牧舎」の村上拓鴻さんに取材協力していただき、活動内容や魅力についてお聞きしました！

私が取材をしました！

i-Connect社員
理工学部2年
石橋 理絵さん



「K子班キッズ」

今回はK子班キッズ代表の鈴木結好さんに取材をしてきました。いったいどんな活動をしているサークルなのでしょう。

私が取材をしました！

i-Connect社員
人文社会科学部3年
澤口 花咲さん



Q 農牧舎さんはどんなサークルですか？

A 人文社会科学部6号館の奥にある学内の土地で、畑づくりをしているサークルです。現在、学部2年生から4年生まで計13人が所属しています。雰囲気としては、少人数ということもあり先輩と後輩の距離がとても近いので、よく作業の内容を教え合いながら、仲良く活動しています。



▲滝沢にある農場からいただいたヒエ（長十郎もち）を植えているところ

Q 普段はどのような活動をしていますか？

A 毎週日曜日の10時から12時までが主な活動時間で、植えた作物が育つための環境づくりをします。活動内容は畑を耕して種をまいたり、収穫をしたりと季節によって変わります。



▲様々な作物を育てています

Q 村上さんが入部したきっかけを教えてください。

A 同じ農学部の友人からの誘いがきっかけでした。自分も気になっていたので入ることになりました。今となってはその友人にとっても感謝していますね。

Q 農牧舎さんの魅力を教えてください。

A 作物を育てる中でメンバー同士の交流も自然と深まり、自分がやりたい作物にも挑戦しやすいという点が魅力だと思います。毎年育てる野菜は、メンバーの意見で決めるので、自分の育ててみたいものにもとてもチャレンジしやすいです。初めて育てる野菜でも、先輩から知識を教わったり、自分たちで調べ合って情報交換をし合ったりできるので、安心して楽しめると思います。

私の場合、農学部で学んだ知識を実践に活かせる場としても非常に楽しく、魅力的だと思っています。



みんなの力でここまできれいになりました！



▲野生のいちごを発見！

取材にあたってゲストとして活動にも参加させていただくことになり、気持ち良い天気の中、種まきなどを見学しました。ものすごい生命力な草たちとの戦いに夢中になってしまうほど、土の上で体を動かすことの楽しさを心身ともに感じました！力を合わせて畑をつくる中で、メンバー同士のきずなも深まりそうです！



●取材に協力してくれた方
代表 農学部 植物生命科学科
3年 村上 拓鴻さん（宮城県泉仙沼高等学校出身）

Q どのようなサークルですか？

A 子供たちと触れ合うことを主としたボランティアサークルです。子ども食堂やフードパントリーの実施、児童センターで行うイベントの企画・運営を行っています。



Q 普段どのような活動をしていますか？

A 月に1度例会を行い、活動の計画を立てています。サークルには50人所属していて、その時の自分の忙しさややりたいことに合わせて自由に参加しています。メンバー同士の仲が良くゆるりとした雰囲気で活動をしています。

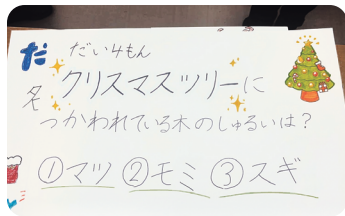
Q 鈴木さんがこのサークルに入ったきっかけを教えてください。

A もともと、子供との関わり方について興味を持っていたのですが、一年後期に行われたサークルオリエンテーションでK子班キッズの存在を知り、活動内容に魅かれたのが最初のきっかけです。また、大学生になり自由な時間が増え、今までしてこなかった社会貢献をしてみたいとも思いましたし、もっと自分の目で色々な世界を知りたいと強く思っていたので所属を決めました。



Q これからどんな活動をしていきたいですか？

A 今まで行ってきた活動を続けつつも、コロナウイルスとうまく付き合いながらさらに活発に活動していきたいです。特に子供を相手に活動することが多いので、対面でしっかりと目を合わせてコミュニケーションを取れる活動を徐々に増やしていきたいです。コロナウイルスが流行る前には、夏にお祭りを開催していたそうなので今年の夏はぜひ開催したいです。



Q 入部を迷っている方へ一言お願いします。

A 子供が好き、イベントを運営してみたい、ボランティアに興味がある、特技を生かしたいなど興味を持った理由は何でも大丈夫です。気を負わず、一度見学に来てみてください！

子供と楽しく関わりつつ、社会貢献を行うK子班キッズさん。今後の活動が楽しみです。



●取材に協力してくれた方
代表 人文社会科学部 人間文化課程
3年 鈴木 結好さん（岩手県立水沢高等学校出身）



岩手大学の良いところ!

岩手大学は、学生が困った時や悩んだ時に気軽に相談しやすいよう、様々な相談窓口を用意する等、学生一人一人を支援する体制が充実しています。

今回は、様々な面から学生のサポートを行っている4つの場所をご紹介します!

■取材者氏名
i-Connect社員
■理工学部2年
石橋 理絵 さん



保健管理センター (通称: ホケカン) <<

●どんなところ?

岩手大学の学生や教職員だれもが利用できる「保健室」のような場所です。体調が悪い時だけでなく、何か困ったことがあった時にはまず気軽にホケカンを訪ねてみてください。体調不良やケガの場合はその場で応急手当を行い、病院の紹介などの情報提供もしてくれます。2階にある学生相談室では、カウンセラーの先生に悩んでいる事や困っている事を相談し、必要に応じてアドバイスやカウンセリングを受けることもできます。相談事の秘密は固く守ってもらえるので、どんなお悩み事でもホケカンに気軽にいってみてください。



入口



中の様子



学生相談室

●場所・時間

学生センター A棟 1階
月曜日～金曜日 9:00～17:00

>> 学生何でも相談室 <<

●どんなところ?

保健管理センターと同様に学生がどんな悩み事でも相談ができる場所です。カウンセラーの先生に一对一で話を聞いてもらい、アドバイスやカウンセリングを受けることができます。相談したいことがあるときは、直接訪ねても大丈夫ですし、学生センター A棟 8番窓口でも受け付けています。保健管理センターからも、相談日時の予約ができますので、ぜひこちらにも気軽に寄ってみてください。



入口



相談スペース

●場所・時間

学生センター A棟 2階
月曜日～金曜日
(時間は担当者により変わります)

>> 学生特別支援室 <<

●どんなところ?

身体や発達などの障がいをもつ学生一人一人に応じて、様々な支援を行っている所です。例えば履修科目の計画を一緒に考えたり、教室の変更・調整や別室試験の調整をしたりと学内外とも連携を図った、心強いサポートが受けられます。支援の他にも、畑づくりなど不定期で様々な活動をしなが、学生一人一人に寄り添い岩手大学での学びを築くお手伝いをしてくれます。



入口



中の様子



活動の様子

●場所・時間

学生センター A棟 2階
月曜日～金曜日 9:00～17:00

>> 学修支援室 <<

●どんなところ?

すべての学生が、学びを充実させ、卒業まで十分に修められるよう、学生の「学び」を支援しています。「授業の内容が分からない」、「どう勉強したらよいの?」など学び方の不安や悩みを聴いたり、大学での教育経験豊富なスタッフによる数学・物理・化学・英語の学修支援講座を開いたりしています。大学に入ってから初めて取り組む学生も多いかもしれない、レポートやプレゼンテーション、小論文関連のアドバイスも受けることができます。心強いスタッフが支援しますので、ぜひ気軽に相談してみてください。



中の様子

●場所・時間

図書館 2階 平日14:00～17:00

i-Connect 通信欄

i-Connect 4年目もよろしくお祈いします!

こんにちは! i-Connectの駒場です。

i-Connectでは、6月に本認定も完了し本格的に4年目の活動を開始しました。先日新メンバーも加入し、今回の広報誌から活動に参加しています。4年目のi-Connectもよろしくお祈いします!

岩手大学では、県内での新型コロナウイルス感染症の拡大により、4月から一時的に対面での課外活動が停止されました。リモート生活も3年目になり、Zoom等をスムーズに活用してミーティングや取材を行いました。i-Connectだけではなく、今回の広報誌で紹介したサークルでも様々な影響が出ましたが、各サークルがリモートでできることを模索しながら活動を継続しました。

コロナ禍による不便もありますが、先日は感染対策に留意しながら県内の中学生に向けた大学案内を行いました。i-Connectメンバーが担当の大学職員とも連携しながら準備を進め、充実した大学案内になりました。今回の大学案内で、普段岩手大学に来る機会の少ない生徒さんにも岩手大学の強みや学内の普

段の様子が伝わったことと思います。

i-Connectでは学内団体への取材だけでなく、岩大生と地域との関わりに関する情報発信も行っています! たくさんの方に伝えたい、広めたいことがある方は、是非お気軽にi-Connectまでお知らせください!

新メンバーもいつでも募集しています。i-Connectでは広報活動を通して学内団体や岩大生の情報発信に貢献できるだけでなく、多くの人との関わりを持つことができます。岩大をもっと知りたい、魅力を発信したい、何か新しいことに参加したいという方は是非入社を検討してみてください!

● i-Connectは、岩手大学と地域、学生同士の橋渡しを担うことを目的として広報活動を行う学内カンパニーです。

問い合わせメールアドレス
iconnect.gandai@gmail.com



i-Connect
Twitter アカウント▶



研究紹介



声楽芸術を探求する、研究と授業そして舞台演奏活動…… オペラ歌手として故郷岩手へ、 ヨーロッパから生きた文化の土産を手渡す日々!



学校教育教員養成課程 音楽教育
准教授 米谷 毅彦

声楽研究室とは、どの様な部屋でしょうか?

2020年秋より岩手大学で教鞭を執る事となり、我が故郷の若人と音楽の研鑽を重ねる日々はいよいよ充実したものとなっています。

さて様々に題された研究室が存在する中で、「声楽研究室」という呼称に不慣れ或いは違和感を覚える方もいらっしゃるのではないのでしょうか?

文系の様な理系の様な……しかし積み重ねられた原書や試験管他の実験道具が並んでいるわけではなく、そこは膨大な量の楽譜とグランドピアノの一室です。

そこで研究しているのは、一体何でしょう?

ではそこで何を研究しているのかといえばもちろん「声」なのですが、正確には声楽芸術なる「声を楽器とする音楽」ということになります。

こう記すときれいな声を出す発声練習所または上手く歌うための稽古場と思われるそうですが、実はその根

底に求められる一朝一夕には達成出来ない知識そして研ぎ澄まされた感性の習得にほかなりません。

もって生まれた才能と天分だけで、人を感動へ導かれるのでしょうか?

こと音楽の世界では天分や才能という言葉が頻繁に使われ、限られた人のみに学びが許されると考えられがちです。

それは多分楽譜を再現する段階での出来不出来に個人差が顕著であるからですが、そもそも音楽の本質は人間同士の心の対話です。

上手く出来るとか早く完成することは評価に値するのですが、果たしてその演奏に出会った人に「感心」ではなく「感動」を与える必要条件でしょうか?

いかに歴史上の至宝たる作品であれ、同じ人間が創り出した感情の表現であることへの共感が第一

全ての楽器と同様に声楽技術の習得は困難を極め、それを育む動機と意欲が作品への共感であることから研究が始まります。

その道のりを面倒と思えばクラシック音楽は高尚で手が届かないままですが、同じ血の通う人間の遺産として地道に共感の糸口を探ることで見えて来るものは確かに有るのです。

教育学部音楽教育科の視点、そして立場として!

この「見えて来るもの」を教壇から児童や生徒へ示唆すること、さらには自らの歌唱を通じて「感じてもらう」まで到達することを目指して日々研鑽は続けられています。

学問たる音楽に基づいて声楽芸術として到達する技術を探求する現場、それがここ声楽研究室の使命であ

るといえます。

オペラ歌手として国内外の舞台を踏み、多様な文化に出会って来た演奏活動を通して!

自身が演奏して来た舞台は水準も様々であると同時に、多種多様な文化や社会情勢そして治安の良し悪しがあり、各国社会でオペラがいかに存在しているかも衝撃の積み重ねでした。

これらの経験に加えて今もなお現役のオペラ歌手として各地の舞台演奏で切磋琢磨していること、生身の声楽家としての活動を通してその全てを岩手大学の学生へしっかりと手渡しています!



第九交響曲 バリトン独唱の本番舞台を終え、抱えきれない花束を贈られる筆者



コンスタンツァ国立歌劇場公演「リゴレット」にて、題名役バリトンのせむしの道化師を主演



“Rigoletto”公演で娘Gildaを演じたロシア人ソプラノ Svetlana Levitchi と舞台上、他演目では恋人役としても共演したが今はどうしているだろうか?



今春声楽専攻で卒業した学生と共にお気に入りの軽快なステップ、卒業時には素敵に額装し贈られました

研究紹介



超高压力で原子が動き、物質の性質が変わる



物理・材料理工学科 数理・物理コース
教授 中山 敦子

ギガパスカルって、どんだけえ〜

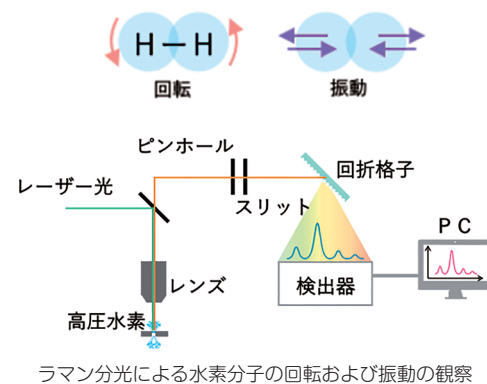
圧力は物質の状態を決める重要な物理量の一つです。料理に使う圧力鍋で発生する圧力は2気圧くらいですが、深さ10kmの海溝の底で千気圧、ダイヤモンドが採掘される地表から100kmの深さで4~10万気圧、地球中心部(=深さ6400km)で360万気圧、木星中心部で1.5億気圧、太陽中心部で5億気圧が生じていると言われています。私の研究室では、ダイヤモンドを使って超高压力といわれるギガパスカル(GPa)級の圧力(1GPa=1万気圧)を物質に加えて極限環境でしか現れることのない「モノの性質(=物性)」の探索を楽しんでいます。「そんな圧力をかけたら何でも壊れる?」と思うかもしれませんが、物質はそう簡単には壊れません。むしろ、しぶとく、原子間距離

を少しずつ縮めながら状態を維持しようとし、とうとう圧力に耐えきれなくなると、別なモノに姿形を変えます。代表例はダイヤモンドで、黒鉛を温度1400~1500℃、圧力5~6 GPaで圧縮することで生成します。黒鉛は六方晶構造もつ黒色の半金属ですが、ダイヤモンドは立方晶構造をもつ透明の絶縁体で、世の中で最も硬い物質で、だからこそ、ギガパスカル級の圧力を発生させる道具として使うことができます。ついでにもう一つ、圧力で性質が一変する例を紹介します。温泉に行ったらありそうな炭素と水素と硫黄の化合物、これに267GPaの圧力をかけると、15℃で超伝導状態、つまり、電気抵抗ゼロになることが2020年、英ローチェスタ大のグループによって報告されました。もう、室温超伝導は夢ではありません。人間の想像を遙かに超える「超高压力の世界、って、ワクワクしませんか!

エキゾチックな高压水素の物理

研究室ではグラフェンやカーボンナノチューブなど、様々なフレームワークで構成される炭素材料に注目し、これらがもっているナノサイズの間隙を「容器物」に見立てて、水素を安全、かつ、大量に、よりマイルドな条件で運ぶにはどうすればよいか調べています。現在、水素を大量に輸送する方法はいくつかありますが、低温に冷やして液化

し、圧力をかけて体積を800分の1に圧縮する方法が大量輸送・貯蔵に適した方法とされています。一方、水素を液化するには相当のエネルギーが必要です。室温にできるだけ近い温度で簡単に圧縮できる容器があれば、今よりずっと水素エネルギーが利用しやすくなるはず。水素の容器物を探索するためには、水素の性質を知ることが大切です。水素は室温で5.4GPaの圧力をかけると固体になることが解っています。それより低い圧力では、超臨界流体(=気体と液体が混ざりあった状態)であると考えられてきました。研究室では、水素分子の回転・振動状態を室温・高压下で注意深く観察することで、0.56GPaで相転移(=ある状態から別の状態に変化すること)が生じることを、はじめて明らかにしました。この転移が何を示すのかは未だ解っていませんが、水素を運ぶ容器物の開発にとって極めて重要なヒントとなるのは間違いありません。



ラマン分光による水素分子の回転および振動の観察

センパイ紹介

OB・OG-INTERVIEW

PROFILE

菅 詩織 さん

山形県職員

山形県最上町生まれ
令和2年3月 人文社会科学部人間文化課程
行動科学プログラム卒業
山形県庁 行政職



Q1 在学当時の思い出をお聞かせください。

コースの同期がいる合同研究室が私の大学生生活の風景でした。同期とは、お互いの研究内容について意見を交わしたり、データの分析方法を教え合ったりして多くの時間を過ごしました。学問的なインプットとアウトプットが日常の中にあっただけの空間が懐かし思い出されます。

Q2 現在のお仕事に就かれたきっかけはどのようなことですか。

元々公務員志望ではありましたが、その中で県職員を選んだのは、「県民のための多様な仕事ができる」点に興味を持ったためです。数年おきの部署異動の中で様々な分野の知識を得て成長しながら、自分の地元の発展に多方向から関わられるのはこの仕事の魅力だと思います。

Q3 仕事のやりがいや今後の目標をお聞かせください。

自分の仕事で組織全体の成果に貢献出来たと感じたときにやりがいを感じます。

目の前の仕事に追われていると、仕事をするのが手段ではなく目的になってしまいそうときもありますが、仕事の先にあるもの、仕事の先に目指すものを見失わずに、想像力を持って仕事をしていきたいと思っています。

Q4 後輩となる岩大生へメッセージをお願いします。

岩手大学はワンキャンパスというということもあり、教養科目の授業やサークル活動で学部を越えた交流が出来ます。私にとって、違う学部の友人の研究の話を知ることは、新しいものを知る面白さもあると同時に、自分の学ぶ分野の立場や役割のようなもの考える機会になっていたように思います。違う畑の人との多くの出会いは大学生活の醍醐味だと思いますので、ぜひ今しかない出会いを楽しんでいただければと思います。

TOPICS トピックス

ダイバーシティ推進室を紹介します！

岩手大学は性別、性的指向、性自認、人種、国籍、年齢、宗教、障害を理由とした差別は人権を著しく侵害するととらえ、その解消に向け学生・教職員の全員が協力し、多様性を認め尊重し合う環境構築に努めます。ダイバーシティ推進室は、本学のダイバーシティ推進の総合調整を担い、特に、女性の活躍やLGBT/SOGIに関する課題解決に取り組む部署です。

岩手大学のダイバーシティ推進の取組には10年以上の実績があります。女性研究者の採用・定着促進、ワーク・ライフ・バランス支援、学生のジェンダー平等に関する活動支援、全国の大学・研究機関・企業等とのネットワーク構築などを進めてきました。

ダイバーシティ推進室が支援する男女共同参画推進学生委員会（GESCO）は、学内のジェンダー平等推進のために活動しています。最近では、「#生理の貧困」に関するアンケート調査や講演会等を実施しました。

ダイバーシティ推進室が実施する女性大学院生対象の「岩手大学優秀女性大学院生学長表彰」は、2021年度から通称が「鷹鷲テル賞」となりました。鷹鷲テル先生は、本学で初の女性助教授となった研究者です。鷹鷲テル賞には毎年、研究者を目指す女性大学院生から積極的な応募があります。

その他の取組はダイバーシティ推進室HPをご覧ください。岩手大学はこれからも、誰もが学びやすく、働きやすい環境づくりに取り組んでいきます。



岩手大学では、多様性を認め尊重し合う環境づくりのために「性の多様性（LGBT/SOGI）に関する対応ガイドライン」を制定しています。



2021年度岩手大学優秀女性大学院生学長表彰「鷹鷲テル賞」表彰式の様子

ダイバーシティ推進室HP
<https://diversity.iwate-u.ac.jp>



ダイバーシティ推進室Twitter
https://twitter.com/iwateU_Equality



男女共同参画推進学生委員会（GESCO）Instagram
https://www.instagram.com/gesco_iwate/



Information

高校生・受験生向けサイト公開中

各学部の情報、入試情報、先輩の声など、高校生の皆様向けの情報をまとめた高校生・受験生向けサイトをオープンしています。ぜひご覧ください。



岩手大学公式ソーシャルメディアのご案内

岩手大学公式Twitterを開設しました！ 本学に関する情報を随時投稿していきますので、ぜひフォローの上、ご覧ください。

岩手大学公式Twitter
@Iwate_Univ_PR



小川学長Twitter
@iwateu_gakuchou



岩手大学公式YouTubeチャンネル



岩手大学ソーシャルメディアアカウント一覧



岩手大学イーハトーヴ基金へのご協力について

岩手大学では、教育研究の充実はもとより、学生に対する修学支援の一層の推進を図るため、平成27年度に「岩手大学イーハトーヴ基金」を創設しました。本基金は、本学の教育研究や学生支援を幅広く展開することを目的とした「一般基金」と、東日本大震災により被害に遭った学生たちへの修学支援など、用途を特定した「特定基金」で構成され、これまで、企業・団体や個人の皆様など多くの方々からご支援をいただいております。

また、今般の新型コロナウイルス感染症の影響を受け、経済的に困窮する学生への支援を拡充するため、岩手大学イーハトーヴ基金の特定基金である『修学支援事業基金』へのご寄附にご協力をお願いしております。

最新の特定基金情報、寄附の申込・払込方法については、お手数ですが、イーハトーヴ基金ホームページをご覧ください。



岩手大学イーハトーヴ基金ホームページ

お問い合わせ先
岩手大学 法人運営部 基金室
(平日午前9時～午後5時)
〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8
TEL:019-621-6091 FAX:019-621-6014

卒業生の進路状況について

卒業生の就職率や就職先等の進路状況については、以下のページからご覧いただけます。



編集後記

最後までお読みいただきありがとうございます。岩手大学での課外活動や岩手大学のおすすめポイント、最新の研究成果や卒業生の活躍、ダイバーシティ推進の取組み等についてお楽しみいただけたでしょうか。わかりにくかった部分やもっと知りたい内容等がございましたら是非ご意見をお寄せください。ご意見を参考にしてこれからもより良い広報誌をつくらせていただきます。

今後とも「Hi!こちら岩手大学」をよろしく願いたします。



Hi!こちら岩手大学 vol.50

2022年8月 発行
岩手大学広報室
〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8
E-mail:kkoho@iwate-u.ac.jp
<https://www.iwate-u.ac.jp/>

本誌へのご意見・ご感想をおまちしております。